

## 2004 年度 委員会活動成果報告

( 2005 年 3 月 31 日作成 )

委員会名	湿気物性学術規準企画刊行 WG	主 査 名：芝池 英樹
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会	委員長名：鉾井 修一
設 置 期 間	2003 年 11 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	湿気物性の測定法と測定例を記述した湿気物性学術規準について原稿を精査し、学術規準と同解説に分離して、相補性と簡潔性を高めるための検討に、設置期間の多くを費やした。最後に、刊行原稿として、湿気物性とその測定法に関する湿気物性学術規準とその解説編として、とりまとめた。	
委員構成 (委員名(所属))	芝池 英樹(主査、京都工芸繊維大学)、高田 暁(幹事、神戸大学) 岩前 篤(近畿大学)、小椋 大輔(京都大学)、小南 和也((財)日本建築総合試験所) 齋藤 宏昭(建築研究所)、佐藤 真奈美(大阪工業大学)、鉾井 修一(京都大学大学院)、 本間 義規(岩手県立大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	130,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	実際の会議は計 2 回だけ開催し、12 名が参加した。 一方で、インターネットを活用して、メーリングリストと Web Page によって、連絡と意見交換を補ったが、国立大学法人化初年度と重なり、作業の進展が一時停滞してしまった。しかし、最終的には委員諸氏の奮闘により、所期の目的を達成できた。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 熱・湿気物性の測定法と測定例を湿気物性学術規準の刊行原稿をまとめることができた。2003 年 7 月 25 日に建築会館において開催したシンポジウムでの意見聴取を主とするパブリックコメントを採取り、これらの意見に基づいた規準(案)の修正作業および出版に向けた作業を実施した。 建築材料の熱・湿気物性値は、湿気の影響に配慮した室内熱環境・建築外皮の熱性能予測において不可欠のものであり、この規準と同解説は、研究・教育はもちろんのこと、実務にも資するものと考えられる。 活動経過等については、ホームページ( <a href="http://hamtpas-aij.dad.kit.ac.jp/">http://hamtpas-aij.dad.kit.ac.jp/</a> )で公開している。また、最終的な成果は、「湿気物性学術規準」と同解説は 6 月には学会から出版される予定である。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 予定期間を 1 年超過したが、当初予定していた通りの成果を上げる事ができたと考えている。
その他評価すべき事項	特になし。